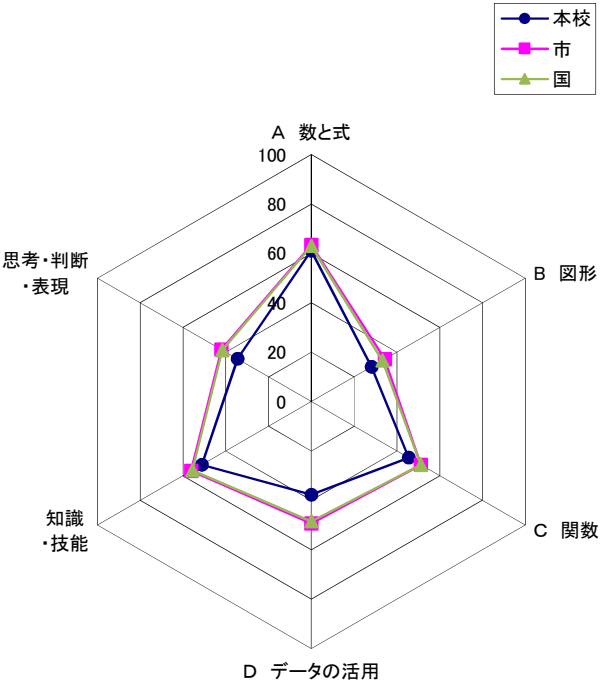


宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	61.0	63.4	63.0
	B 図形	28.1	34.3	33.2
	C 関数	45.5	51.2	51.2
	D データの活用	37.7	49.4	48.5
観点	知識・技能	51.2	56.2	55.7
	思考・判断・表現	34.5	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は市平均を2.4p、全国平均を2.0p下回っている。 ○計算問題が良くできている。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では全国平均を1.2p上回った。 ●自然数を選ぶ問題では正答率が低く、負の数も含めて回答している生徒の割合が多かった。	・自然数や素数など、数の範囲について理解し復習すること定着を図る。 ・証明や説明の問題では、無回答率が高くなっている。穴埋めの問題形式から、徐々に記述式にしていくことで、証明や説明の手順・考え方を身に付けながら、記述問題にも慣れていくように指導していく。
B 図形	平均正答率は市平均を6.2p、全国平均を5.1p下回っている。 ○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題では、正答率が県平均を0.9p上回った。 ●錯角や同位角を用いた平行線の証明の記述問題では、正答率が全国平均を13.3p下回っている。	・説明や証明の問題では、まず、穴埋めの問題形式で証明の形を身に付けさせ、なぜそうなるのかを質問したり、教えあったりするような少人数でのグループ活動を取り入れ、理解を深めていく。 ・ICTを活用して、図形を動かしたり、立体的に捉えたりするなど、視覚的にイメージしやすい工夫をし、思考力の伸長を図る。
C 関数	平均正答率は市平均を5.7p、全国平均を5.7p下回っている。 ○事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈できるかをみる問題の正答率は61.3pであり、関数の領域の中で比較的良好でできた。 ●反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を11.5p下回っている。	・関数とは、ともなって変わる2つの数量の関係であるということ、身近にある具体的な事例を用いて説明することで興味を持たせ、根本的に理解を深めることで、苦手意識を持たせないようにする。 ・式・表・グラフを関連づけて考えられるように、比例、反比例、1次関数それぞれについての特徴を比較して捉えることで理解を深める。
D データの活用	平均正答率は市平均を11.7p、全国平均を10.8p下回っている。 ○四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が56.9pであり、データの活用の領域の中で比較的良好でできた。 ●累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を11.7p下回っている。	・データの活用では、平均値、中央値、最頻値、などの代表値があり、それぞれの意味や求め方を、折に触れて何度も繰り返し確認して定着を図る。 ・実際のデータを使用し、様々な代表値で値を出し、その結果から、意味があるものと意味がないものを判断していくところまで理解させる授業を行い、深い学びにつなげていく。